

んから夏中はおまへをおしこめて置かねばなりません、冬になつて花も葉も菓物なぞももうなんにも無いよふになつた時には外へ出てゆきあそんでよろしい、わたしか目にはおまへは氷か雪が相當で花や菓物なぞはひかぬと思へる』と申しわたされました。

考へもの

前號の解

(一)可愛い一人子の旅立どかけて

餅の入らないお汁粉ど解く

心は 餡汁(案じる)許り

(二)曲つた杉の木どかけて

飛脚ど解く

心は 走らにやならぬ(柱にやならぬ)



親馬鹿といふを讀みて

ふみ子

私は毎日子供を世話して居りますから、特にこの婦人どこともといふ雑誌を愛讀いたします。先日第十號の家庭欄にヒツポ、タモス、アイランド氏が親馬鹿と題して、子供の行爲について記されてあつたのを讀み、また、其扱い方に付いての間を出されてあつたのを見まして非常におもしろみを感じました、私はヒツポ、タモス、アイラン

ド氏と共に斯様な間に對して皆さんの御教を仰ぐことを切に望んで居ります。それでまづ私は皆さんの御矯正を仰ぐために自分の考を記して見ようと思ひます。

子供を、ぶつたり、つねつたりすることは、徹頭徹尾いけないことで、どんな子供に對しても、どんな場合にあつても絶對的にしてはならぬことゝはおもひません。

しかし普通の子供、ことに鋭敏な子供に對しては、する必要がなく、また、しない方がよいとおもひます。

ヒツポ、タモス、アイランド氏は子供が譚のわからぬ駄々をこねる時に、ぶつたり、つねつたりなさるといはれましたが、私は斯様な場合にはむしろ、はつて置た方がよいとおもひます。子供が

駄々をこねる場合と申ししても、色々ございませうが、例へば「阿母さんは今忙かしいから、あどでしてあげよう」といふても「いまでなくちやいや、今桃太郎のお話して頂戴、舌切雀のお話して頂戴」などいふて、しつこく、つきまとい、遂には忙かしく、立ちはたらいて居る阿母さんの袖にすがつて泣きだしたり、また「おまへには玩具の時計を買つてあげるから阿母さんの時計を玩具にしてはなりません」といふても「その阿母さんの小さい時計を頂戴」（ちやうだい）といふ様なことは、平常ありがちのことでございませう、即ち子供は出來がたい希望を立てて、それを自分の望む通りにして貰うと請求する様な場合が多いのであらうとおもひます。

只今のやうな場合に、いくら言うて聞かせまし

ても子供は、さういれずに無理をいうて泣き出した様な時には「阿母さんが、ひまになつたらしてあげる」とか「外に出た時に買つてあげる」とか言うて、あどはだまつて泣きやむまではつて置くど、いゝどおもひます。かういふ場合にはつて置きますと、子供は泣きつかれて、しかたなしに泣きやむか、又は阿母さんが一旦ひまな時にどか、あどでどか仰れば、今は、どんなに泣いてもして下さらない、また買つて下さらないものであるといふことをさどつて泣きやむのが、多いであらうと思ひます、但しこれを氣長に待つのは随分時がかゝるかもしれせん。子供の泣き聲を聞て居りますのはなかく堪はられぬものでございませう。これは大にたえしのばなければなりません。そうして、あどでは初に約束したやうにひまな時に心

よく桃太郎の話や舌切雀の話をきかせたり、また、外に出た時に玩具の時計を買つて與へるがよろしいと思ひます、つまり、子供が色々の要求をいたしました時に全く出来ないこと、又は不正なことならば、しかたがありませんが、さもなくて子供として正當の望であるならば、子供の望む通りは出来ないといたしても、いきなり、はねつけて失望させてはなりません。たとひ其時にはしてやることが出来なくとも、あどでしてやるどか、いふ様に約束して、其あどで、きつと其約束を實行する事が大切であります。か様にしてまいりますと、子供はだんく無理をいふことも少なくなりませうし、また親が子供をぶつこともいりません。すべて罰を用ゐないですむならば成べく用ひぬ様にして若、やむを得ず

用ひるならば極々軽い罰で利目のある様にした方がよいと思ひます。体罰について記して見たいこともございしますがあまり長くなりませんから、やめます。

(ついで)

親馬鹿 (ついで)

ヒッポボタモス、アイランド

● かれは滿二年半頃の時に、ねばあさんがその泣くのをすかす方便として、「坊よ、泣くとね、鬼がくるよ、青鬼はウングワ―(奇聲)となくし、赤鬼はゴロゴロゴロゴロ(奇聲)と泣いて来るよ」
と出たら目を申しましたところ、かれは心機を一つ返し果して泣くのをやめ「それちや紫のは」といひて之でまたかばあさんを苦しめました。
かれが滿三年の頃、となりへ遊びにいつて、床に

かゝつてあつた不動の掛軸を物珍らしげにながめてゐました。家の主人がからかひ半分に「どうです坊ちやんねもしろいものでせう、坊ちやんの内にもありますか」と申しましたは「ア、内のはすわつてら―」といひました。内にはあやにく不動の掛軸を持たないのでありますが、何をどりちがへたものかしません。之は後に隣家の主人が来て「坊ちやんにはえてしてやりこめらるゝ」どの笑話でしたのであります。

かれは滿四年たらずの頃、回向院の相撲を見に行きました。最初の中は力士をこはがつて見向きませなんだ。そのうちに一寸くどぬすみ見して居ましたが「あれは人でございさるのだからこはくないチーおどつさん」。之はかれが仁王べんずりの類をこはがる故に「あれは木でこしらへてある

のでこはくも何ともない云々」といひさかせた事の對句であらうと思ひます。同じときかれは「すまうどりはどこにゐるの、どこからでくくるの」としきりにそのせんざくをしてゐました。

●かれは今しきりにいろ／＼の書をかいてくれと注文します。こないだ馬の書をかいてやりましたに、「この馬のくびか弓張てゐなくていけない」といひました。瀟車の書をかいてやりましたに「けぶり出しがこんなとこ（湯釜のうしろの方）へつけておけり）にあるのはない。まへへつけてくれなさやいけない」とか「列車がつながつていない」とか「車と車との間の棒がない」とかそれは／＼厄介でなりませぬ。そんな場合に一寸いふやうにしてやる事ができればしてやりますが、烟突のつけかへなどは迷惑千万でありますから、「いやかういふ

のもあるのだ、たまへはまだしらないのだ」とごまかして切抜けますが、之もやはりいけない仕方でありませう。何とかよい工夫がありませうか御教を願ひたいものです。

●前例にも見えました通り、私共の家庭では到底鬼幽靈化物などのことばを聞かさぬやうにする事は出来ませぬ。「こどもをねどしてはならない」とつね／＼みんないひあつて居ますけれど、ひどくねどすつもりでなしに、時々その名前がとなへられます。いやたとひ家内は十分心得ましても、子供は近處隣できて來ます。こないだも次の方（女兒満二年六ヶ月）が頭へ風呂敷を引かぶつて「ねばけやればけや」と親共をねどしに出たには驚かされた。こんなことを習はすのがいやだとすれば少しも家のそとへも出させませぬし、又隣の子供の

遊びに来るのもどめねばなりません、それは手
 のない家では出来る事でもありませんし又そんな
 に内にばかり片付けておく事は體育上にも、また
 世間に對する同情上にもどうであらうかと 思ひ
 ます。さ、その場合に幼稚園があらば誠に仕合せ
 でありますが、今日のところ近所に幼稚園があり
 ませんし、(小學校を二つも三つもこえて行かねば
 幼稚園はありませぬ) ありましたところが、一寸
 てがるでありませぬ。それで私などはマアそんな
 ことばゆく／＼學校へ行くやうになつて、近所隣
 の子供等と一所になほしてもらう外はないと思つ
 て居ます。どんなものでござりませうか。
 ●私の内では子供が菓子をはしがる時いつでもや
 るといふ事はしません、起きちん、十時ちん、
 三時ちん、ねちんの四回やります。ゆく／＼學校

へゆくやうになりましたら、十時ちんは勿論、ね
 ちんねちんをもやらないつもりであります、今
 のところはかれらの既得權としてやつてあります
 ところがそのちん時に菓子がされて居ましたら、
 錢を持たせて買ひにやりますが、どうですといけな
 いでせうか。金をあつかはずと、わるくするとぬ
 すみ心が出るといひますけども私は信じません。
 扱ふが爲に盗心のでるものならば玩具などについ
 てはなほさら出んければなりませんし、金を扱は
 すればいやしくなると申しますけれど、いやしく
 なる材料には食物や玩具の方がやはり上だらうと
 ねもひます。一體金にいやしいのはわるくありま
 せうけれど、金をいやしい物にする事はどうであ
 りませうか。私のところでは子供の所有觀念に三
 通りの別をたてさせやうと考へて居ます。第一は

我が物(専有)人の物、第二にはなかまの物(共有)第三には内のものよそ(他家)の物でありまして、
 ねちゃんや、ねわしはねび、きもの、下駄などと同じく専有物であつて、わがものでない物には一切手をさへてならぬ事。ねもちやには兄弟なかまのものもあり、家、庭、箒、ごみため、の類はうちのものにして、うちのでないものには一切さはつてはならぬ事と教へて居ます。そして子供同志でものを貰つたりやつたりは一切ならぬ事にして、よそのねおぢさんねばさんたちにもらつたものは必ず見せに歸る事にして居ます。私は之で子供相當の所有觀念がきまつて、めつたな事はあるまいと思つて居ますが、しかしこないだ近所の子供二人と長男どで母親の居ない留守に砂糖壺を引出し、なめたり、水へ入れてのんだりして、半分餘もた

べてしまいました。うこんどから内でもそんな事するのでないが、もしよそへ行つてそんなことしたら、ねどつさんがどれほどしかるか知れない」ぞと申し聞けてねきました。が、之は錢など扱はずからでありませうか。どうでせう。私などもこんな事はたび／＼したねばえがありますから「マア内ものどよそのものと區別だけたてさせてければよい」と思つてゐますがどんなものでせう。御教へ下さらばたい私のためばかりでなく、世間の親達の御参考にもならうと思ひます。あまりながくなりまして相すみませぬ。

(終)

たのしみは堅く縁いで妻や子の

笑みを肴に一才一盃

蛙九